

コリント人への手紙第一 2 章 6-16 節「キリストならどうする？」

小池 宏明 牧師

パウロが大規模な港湾都市コリントに初めて来た時、彼は弱くて恐れを抱いていた。それでも、パウロは、当時の「この世の知恵」を利用することなく、とつとつと福音を宣べ伝えた。こうして、神の御霊と神の力によって救われた群れが、コリントにある家の教会に呼び集められた信徒たちであった。

*神の知恵においては成熟しているキリスト者

コリントの信徒たちに向かってパウロは語った。6 節「しかし私たちは、成熟した人たちの間では知恵を語ります。この知恵は、この世の知恵でも、この世の過ぎ去って行く支配者たちの知恵でもありません。」ここでは、コリントの兄弟姉妹のことを「成熟した人たち」と言い、神の知恵について語り合うことができる者としている。この場合の成熟した人たちとは「神の知恵」について認めて受け入れているすべてのキリスト者のことを指しているだろう。キリスト者が受け入れた「神の知恵」とは、「福音」のことだ。その内容は十字架に付けられたイエスこそ、神の子、救い主であり、十字架の死は私たちの罪の身代わりであること、主の復活によって私たちキリスト者に永遠のいのちが与えられ、御国の約束が確かであることだ。この福音は人間が小さな頭で考え出したことではなく神の奥義であり神からの啓示だ。この福音を心から受け入れたのでキリスト者は完全に救われている。誰からも非難されたり責められたりすることはない立派なキリスト者だ。これは、とても素晴らしい恵みだ。

*キリスト者はキリストの心を知る者として生きる

2 章の最後 16 節で、パウロは、キリストの心について語る。「**だれが主の心を知り、主に助言するというのですか。**」しかし、**私たちはキリストの心を持っています。**」イザヤ書が引用されていて、主なる神様の心を知り、主に助言できる人は誰もいないことを強調している。しかし、キリスト者はキリストの心を持っている。この 2 章では、コリントにある教会の兄弟姉妹が仲間割れしていて、分派・分裂の問題を解決するためにパウロが教えている続きで、パウロは、私たちキリスト者は、キリストの心を持っているので、仲違いせずに一致できる、と言いたいのだ。W. W. J. D と刻印された指輪やブレスレットがある。W. W. J. D は What Would Jesus Do? の英単語の頭文字をとったもので「イエス様ならどうするだろうか?」という意味で、悩んだときや選択に迷ったときに、自分で自分の心に問いかけて、イエス様の御心になつた選択ができるように意識できる。キリストの心を持っている私たちキリスト者こそ、大切にしたい問いかけだ。間違っただ道に行かないように、滅びの道に行かないように、いのちの道を選び取ることができるように、問い掛け続けたい。